

町家形式の建築物の前面利用に関する研究

高山市大新町越中街道地区における新旧共存型歴史的市街地の街並み形成に関する研究 その4

正会員 ○ 竹本 千里* 同 藤井 高広*
同 土信田 浩之* 同 野原 卓**

高山市 越中街道 伝建地区
町家 前面空間

1. 研究の背景と目的

歴史的街並み保全においては、伝統的建築物のハード面の保全のみならず、現代生活への適応にも配慮した保全を進めていくことが重要である。しかし多くの街並み保全の現場において、現代生活に適応させる際に何らかの課題が生じている。例えば従来の町家形式の建築物では、その細長さやドマ・ミセ空間の使い方などが解決すべき課題として存在している。こういった現状の課題を把握することで、より現代生活に配慮した保全計画の検討が期待できる。

そこで本研究では、高山市下二之町大新町伝統的建造物群保存地区（以下、伝建地区）内の越中街道地区を事例として、町家形式の建築物における前面空間の使用状況を把握し、現代生活にも配慮した伝統的建造物の保全手法を検討する一助となることを目的とする。

2. 越中街道地区における伝統的建造物の特徴

越中街道地区を含む高山市下二之町及び大新町の一部は、平成 16 年に伝建地区に指定された。前報告¹⁾の通り越中街道地区では、間口が四間未満の建物が全体の 74% を占めており、「うなぎの寝床」と呼ばれる細長い町家形式であることが大きな特徴である。越中街道の典型的な町家の間取りを図 1 に示す²⁾。正面から裏手まで続くドジによって全ての部屋は繋がっている。沿道の部屋はミセと呼ばれ、商売のための空間として利用された。もともと越中街道地区は街道沿いの職人街として発展したため、ミセは作業場および客を迎える空間として使われて来た。

昭和期の鉄道開通等を契機に越中街道地区も職人街としての役割を終え、町家は仕舞屋化した。それ以来、徐々にミセは利用されなくなり、人々の生活の営みは建物の奥の方へと移っていき、現在沿道空間には人気を感じられなくなっている。

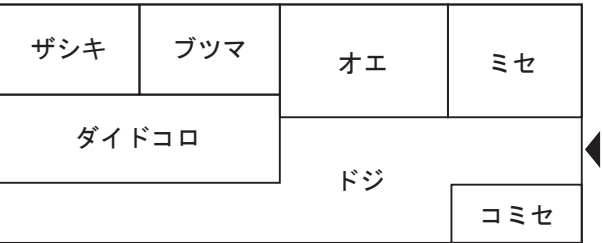


図 1 越中街道地区における伝統的な町家の間取り

3. 前面空間の使われ方

3-1. 前面空間使われ方調査の概要

建物の壁面線に関わらず、沿道から奥行き約 10m を前面空間（かつてのミセ空間を含む）と定義し、越中街道地区において前面空間使われ方調査を行った。調査概要を表 1、調査結果を図 2 に示す。

3-2. 前面空間の使われ方の特性分析

調査の結果、前面空間を駐車スペースや空き部屋・物置として利用している家庭が多く、前面空間での人の滞在が少なくなっていることが明らかとなった。その一方で、昔と同様に前面空間を商店として利用している家庭や、子供部屋・書斎など新しい使い方をしている家庭も見受けられた。

① 駐車スペースとしての利用

表 2 のように、6 割以上の家庭が沿道を駐車スペースとして利用しており、中でも特に屋外駐車スペースとしての利用が全体の 4 割近くと最も多かった。一方、屋内に駐車スペースを設けている家庭は最も少なく、全体の 11% であった。街道沿いに駐車スペースを設けると、その分、生活も建物の奥の方で営まれるようになると考えられる。

② 空き部屋・物置としての利用、空き家の増加

空き部屋・物置としての利用は、それぞれ 5 軒ずつであった（表 3）。その中でも、前面に駐車スペースを設けている場合が、それぞれ 1 軒、2 軒であった。また越中街道地区には、現在空き家が 3 軒ある。これらの利用では、前面空間での滞在が殆どないと考えられる。

③ 応接間・仏間・寝室としての利用

前面空間を応接間・仏間・寝室として利用している家庭もあり、それぞれ 4 軒、2 軒、2 軒であった（表 3）。そのうち前面に駐車スペースを設けているものはそれぞれ 1 軒ずつであった。これらの利用では、前面空間自体に役割は与えられているが、実際には殆ど使われていなかったり滞在時間帯が限られていたりすると考えられる。

表 1 前面空間使われ方調査の概要

日程	2008/8/27 ~ 2008/8/31
軒数	55/89 軒
方法	各家庭を訪問し、実測調査及びヒアリング調査を行った。商店等目視で判断できるものについては、目視調査を行った。

Study of the facade use of Machiya Buildings
-Part 4. Study for Streetscape Planning in the Historic District
Coexisting Old and New Type of Buildings, the Ecchu-street Area,
Takayama City-

TAKEMOTO Chisato, DOSHIDA Hiroyuki
FUJII Takahiro, NOHARA Taku

④商店・事務所としての利用

越中街道地区には、商店が11軒、事務所が5軒ある（表3）。このうち、前面に駐車スペースを設けているものはそれぞれ2軒ずつであり、その割合は低いと言える。このような商店利用では、前面空間での滞在時間や営みが多いと考えられる。

⑤前面空間の新しい使い方

前面空間を子供・祖父母の部屋として利用している家庭が4軒、書斎として利用している家庭が3軒あった（表3）。またそのうち、前面に駐車スペースを設けているものはそれぞれ2軒ずつであった。これらの家庭では、前面空間での滞在時間や営みが多いと考えられる。

4. まとめ

越中街道地区では、6割以上の家庭が前面空間を駐車スペースとして利用していることがわかった。またそれ以外にも空き部屋や物置、応接間など実質的には使われていない場合が多いことがわかった。これらの家庭では、前面空間での滞在時間が殆どない、もしくは短いと考えられ、現代生活に適応した町家の使い方になっていない。また同時に、従来のミセから感じる事が出来たような人の生活感や気配を、沿道で感じることができなくなっていると言える。前面空間に駐車スペースを設けることで、奥での営みや気配が沿道に染み出しにくくなっているという弊害も起こっている。

一方で、商店や子供・祖父母の部屋などとして前面空間を積極的に利用している家庭も見受けられた。このような家庭では、前面空間での滞在や営みが一定程度確保されており、少なくとも前面空間の利用という点では、現代生活に適応した町家の使い方が出来ていると言える。また、前面空間に駐車スペースを設けている家庭の割合が低く、滞在や営みの気配を沿道でも感じやすくなっている。

以上のように、歴史的街並み保全においては、伝統的建築物のハード面の保全のみならず、現代生活への適応にも配慮し保全計画を検討していくことが重要であると言える。

【注釈】

- 1) 野原卓他（2008）「高山市大新町越中街道地区における新旧共存型歴史的市街地の街並み形成に関する研究」2008年度日本建築学会大会学術講演梗概集
- 2) 「高山 旧城下町の街並み 下二之町・大新町地区伝統的建造物群保存対策調査報告」（2003年3月、高山市教育委員会）より引用。
- 3) 一つの家庭において、二つ以上の前面空間の使い方がある場合は、重複して数えることとした。

表2 前面空間の駐車スペースとしての利用

駐車スペースの種類		軒数	割合
あり	屋外	34軒	38%
	屋外屋根付き	13軒	16%
	屋内	10軒	11%
なし		32軒	36%
合計		89軒	100%

表3 前面空間の部屋としての利用分類³⁾

前面空間の使われ方	全体軒数	前面に駐車スペースがあるもの
空き部屋	5軒	1軒
物置	5軒	2軒
空き家	3軒	1軒
応接間	4軒	1軒
仏間	2軒	1軒
寝室	2軒	1軒
商店	11軒	2軒
事務所	5軒	2軒
子供・祖父母の部屋	4軒	2軒
書斎	3軒	2軒

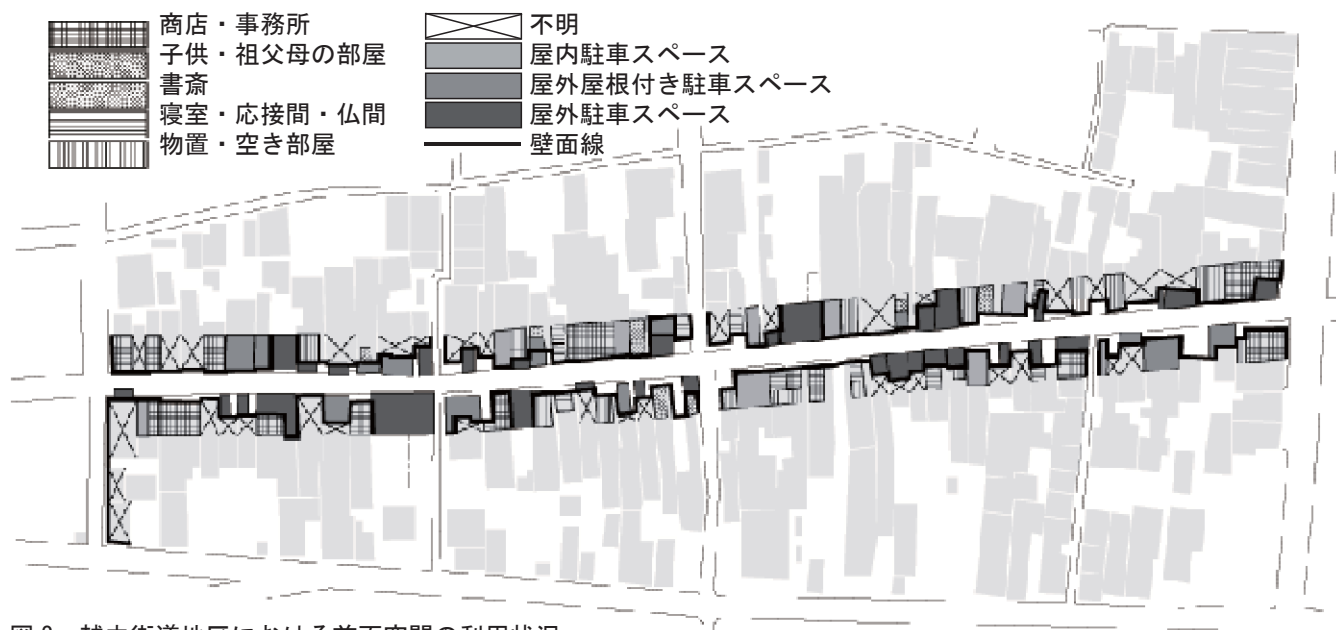


図2 越中街道地区における前面空間の利用状況

* 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程
 ** 東京大学先端科学技術研究センター助教・工学修士

*Master Course, Dept. of Urban Engineering, faculty of Engineering, Univ. of Tokyo
 **Research Associate, Research Center for Advanced Science and Technology, Univ. of Tokyo, M. Eng